

# 自転車整備・e コア活動、竹の子 P J T の報告

(2012 年 5/17～5/20)

昨年 3 月 11 日未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」の発生以降、被災地を支援するサイクルボランティア・ジャパン (CVJ) の一員として、この間

① 震災直後の 3 月 28 日から 4 月 3 日まで丸 7 日間「足湯プロジェクト (PJT)」(福島県の 4 カ所の避難所で 6 回の足湯を実施。延べ 145 名利用)

② 11/24 から 11/27 にかけて福島県南相馬市の 4 つの仮設住宅地区での「たこ焼き PJT」

③ 12/22 から 12/25 まで南相馬市で「自転車贈呈」と仮設住宅地区 2 か所での「天ぷら PJT」と活動をしてきましたが、今回、通算 5 回目となる東北での支援活動(「自転車整備」と「竹の子 PJT」5/17～5/20)に参加しましたので、それらについて紹介させていただきます。

(あと 1 回は、昨年 8 月に「たこ焼き PJT」実施に向けての下見と打ち合わせを 2 泊 3 日で福島県で行ないました)



<震災直後の足湯活動>11年3月

## <今回の支援活動あれこれ>

### ※ はじめに

東日本大震災後、5 回目となる被災地支援はこれまで同様、福島県でしたが、伊達郡桑折町という初めての場所での活動でした。

JR 東北本線桑折駅から歩いて 5 分ほどのところにあるこの仮設住宅は約 200 世帯 400 人余りが住んでおられ、避難されている大多数の方々は地震の影響で大きな事故を起こした福



<桑折町にある仮設住宅>

島原発にほど近い浪江町に在住されていた方々です。そのため、帰宅のメドが全く立たない中で日々の生活を送っておられるとのことでした。

今回、ここを支援活動の場として決めたのは、1 回目の「足湯 PJT」の際、知り合いとなった自称「走る料理人・田川順一」さんの紹介により実現したものです。

## ※ 当初の活動予定

支援活動の当初の予定ですが、関西グループ3人は5/17夜に大阪を出発し、5/18早朝、



夜行バスで福島駅に到着。

そしてこの日は「竹の子PJT」実施のために使用する竹の子の調達。

「竹の子狩り」の場所は、田川さんの奥様の実家のある宮城県伊具郡丸森町のため、田川さんの車で移動し、

＜桑折ガス社長(左)・仮設住宅の方々などといっしょに＞

収穫後、その日は丸森町で宿泊。

関東グループ3人は5/18(金)の夕刻仕事を終えた後、東京を車で出発し、もう1人も別の車で深夜に丸森町で関西グループと合流し、宿泊。全員そろって5/19(土)朝早く宮城県丸森町を出て、福島県伊達郡桑折町の仮設住宅に行くという予定となっておりました。

また、活動内容としては、「e コア装着活動」(ノーパンクタイヤ)と「自転車整備活動」。そして、「竹の子PJT」のメインである「竹の子ごはん」と「イノシシ鍋」をつくって、仮設住宅の方々に提供するという2つの大きな活動が、今回のおおまかなスケジュールでした。

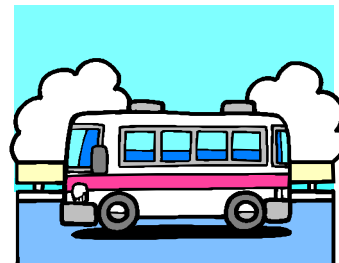
## ※ 二つのハプニング

### ＜その①＞ 義父の逝去

出発前日の5/16(水)午前、かねてから入院中であった義父が逝去し、翌日にお通夜、その翌日が告別式ということになりました。

本来ならば5/17夜に東北に出発する予定でしたが、こうしたことで急きょ出発できなくなったため、東北へのバスチケットをキャンセルし、同行する予定であった金木さんに連絡をとり、いっしょに行けなくなったこと、5/18(金)に行う竹の子堀りなど事前の準備をお願いし、5/19(土)の支援活動の本番については、直接現地の仮設住宅に出向き、そこで合流するというように予定を変更しました。

こうしたことで、義父が亡くなった夜は、葬儀会場で夜斎(よとぎ)のため1泊。翌日はお通夜に列席。5/18(金)は、告別式・お骨あげに至る一連のお別れの儀式をすませ、その日(5/18)、20時40分発の夜行バスに京都から乗り、5/19(土)早朝6時半福島駅に到着。



ここからはJR東北本線・仙台方面行きの電車に乗り、仮設住宅のある桑折駅に向かい、

現地には午前 8 時前に着き、支援の仲間が来るのを迎える形で合流しました。

## <その②> あまりに辺鄙（へんぴ）なところ過ぎて…。

5/18（金）関東から合流する 2 台の車（4 名）は、18 時に東京を出て、23 時ころまでには、宮城県丸森町に到着し、仮眠をとる予定でしたが、宿泊場所の田川さんの奥さんの実家は山



間部にあつたため、カーナビに電話番号を入力し、現地に向かったものの、近辺まで何度も近づきはするのですが、家が特定できず、行ったり来たり。携帯電話も双方が持っていたのですが、これまた辺鄙な場所でアンテナが立たない場所のため、双方電話をかけあうものの連絡がとれずといった状態が続きました。

現地で待っておられた田川さん、金木さんも関東グループの到着があまりにも遅いため、深夜になって車で探しに出られるが会えないままで、結局、関東グループは安全な場所に駐車し、車の中で仮眠をするという選択。そして、朝になりようやく出会うことができ、いっしょに朝食後、桑折町の仮設住宅に向かうという合流になりました。

カーナビ・携帯電話は、今や日常生活に欠かせない便利なグッズですが、頼り切った生活に慣れてしまうとこういった落とし穴もあるんだなあ実感させられるハプニングとなりました。

こうした経過があつての今回の活動の幕開けでしたが、具体的な活動がどのようになされたのか、そのあれこれを紹介させていただきます。



## ※「竹の子 PJT」と「いのしし鍋」

### <その①> 「竹の子 PRJ」



計画当初は、前日に丸 1 日かけてとった竹の子を使って、竹の子寿司、焼き竹の子、木の芽和えなど発想はいろいろと膨らんだのですが、参加メンバーが少ないということと仮設住宅の居住者が 400 名と規模が大きく準備のたいへんさもあり、最終的には 1 品にしぼり手間が極力少なくすむ「竹の子ごはん」を炊き、おにぎりで食べていただくことになりました。

まず「竹の子」については、採取する宮城県丸森町の竹林で事前にとったものを放射能測定機関に持ち込み、食品検査をしてもらい、結果は 10 ベクレル以下で問題なしというお墨付きをいただき、その回答を持って桑折地区仮設住宅の自治会長さんより竹の子料理を提供することの了解を得て、当日を迎えました。

・実際の段取り

当日炊いたお米 30kg (約 21.4 升) は、前日に仮設在住の方に洗って (お米は、仮設住宅に支給されたものを提供していただきました)、4つの容器に分けて用意していただいております。お釜は地元の (株) 桑折ガスより 5 升ガス釜とガスコンロをそれぞれ 3 個ずつお借りし (後述するシシ汁用鍋やガスも含め、ガス関係は桑折ガスがすべて無償にて提供)、ひとつ



のお釜に 4 升余りのお米と当日カットした竹の子・油あげ・にんじんなど

＜竹の子担当:田川さん、油あげ担当:大島、にんじん担当:金木さん＞  
と共に調味料・お酒などを入れ、集会室をお借りし、まず3つのお釜でご飯を炊き上げました。



それらを仮設住宅の女性陣の協力を得て、①お釜のご飯を冷まして、別の容器に移す係、②サランラップを四角に切ってテーブルに並べる係、③お釜からしゃもじやお

＜みんなで協力して、おにぎりづくり＞

椀で炊き立てのご飯をすくいとりラップに乗せる係、④ラップのご飯を握る係に分かれての流れ作業でおにぎりを完成させていきました。3つのお釜のごはんが炊き上がった後は、さらに残った 1 釜分のお米を炊き上げ、30kg のお米すべてをこうして「竹の子ごはんおにぎり」へと変身させました。

＜その②＞ 「いのしし鍋」

おにぎりづくりと並行して、外では 200 リットル入るといふ大きな鍋にお水をはり、ガス



＜野菜、調味料、シシ肉を大鍋に入れ、炊き込みました＞

で沸騰するまでの間に、こんにゃく・野菜などお鍋の材料を準備し、放射能の影響を受けていない2年前にとって保存してあったいのしし肉などを次々に大鍋に掘り込んでいきました。

「シシ肉」は、あばら部分もあったのですが、身の部分を包丁などでこそいで、骨の部分はダシにといっしょにお鍋に入れて炊き込みました。ボタン鍋といえば味噌味が定番ですが、あまりにお鍋が大きいので、数か所から何人かでお玉に入れたお味噌を溶かしながら、調味料、醤油などと共に味付けをしていきました。



＜竹沢CVJ理事長あいさつ＞



＜食事は野外で＞

この日は、青空で申し分のない快晴のもと交通安全協会主催の「交通安全教室」が、地元警察関係者の出席のもと、10時から11時過ぎまで行われ、その終了後、屋外で仮設居住者の方々に提供しました。おにぎりは、ラップで包んだもの、いのしし汁は使い捨ての発砲スチロールのお椀に入れて食べていただきました。

## ※ 自 転 車 整 備 と e コ ア 活 動

「サイクルボランティア・ジャパン」(CVJ)では、愛知県大府市にある(株)「型善」より提供を受けた500台分のeコア(自転車のタイヤからチューブを取り出し、eコア樹脂を入れ、ノーパンクタイヤにする)を持参し、これまで数度にわたって東北の被災地を訪れ継続的に活動を続けていますが、今回も仮設住宅でノーパンクタイヤへの交換活動と自転車の整備活動を行ないました。



＜自転車整備活動＞



＜「型善」紹介の新聞記事＞

これらは、主に関東メンバーが関わりましたが、自転車の整備についての質問があったり、実際に不都合を改善したり、ノーパンクへの交換など居住者からとても喜ばれました。

また、今回の活動取材に来られた地元新聞社「福島民友」の伊藤記者は、震災直後の昨年3月伊達市で足湯活動をした際に取材して下さった方で、思わず顔を見合わせ懐かしく



<自転車整備とeコア活動>

<新聞社の取材>

再会の会話を交わしたりもしました。

昨年取材を受けた際、記事が掲載されるかどうかお聞きした時に、「震災直後で取材する記事はたくさんあるのですが、肝心の新聞紙が手に入ってなくて…」と話をされ、当時、避難所に被災者のために毎朝山積みになる大阪では考えられないほど薄っぺらいもうひとつの地元紙「福島民報」と共に、朝の恒例の日課として目を通したことを懐かしく思い出したりもしました。



<似顔絵コーナー>

### ※「似顔絵コーナー」

CVJメンバーの武田伊佐夫さんは、神戸市在住で「阪神大震災」の時以来、3000枚以上の似顔絵ボランティアをされ、CVJ主催の「ふれあいサイクルイベント」に毎年参加し、参加者の似顔絵をずっと描いてくださっていますが、今回支援活動に初めて同行してくださいました。

そのため「自転車整備・eコア活動」「竹の子PJT」



<武田さんによる似顔絵コーナー>



とは別に集会所の一角に「似顔絵コーナー」を設け、得意の筆をふるっていただきました。

最初、コーナーへ近づくのをためらうような場面もあったので

すが、自ら似顔絵を描いてもらおうという勇気(?)のある方が一人イスに座られてからはズッと列が途切れることがなく、支援活動の片づけを終えるのも一番最後になるというくらい盛況で、多くの方々に喜んでいただくことができました。

## ※ 活 動 を 終 え て

3つの活動の後片付けを終えてから、すぐ近くの仮設住宅食堂に行き、遅い昼食と慰労を兼ねた打ち上げをCVJメンバー7名と材料準備をはじめ、仮設住宅・桑折ガスなどの折衝を一手に引き受けてくださった田川さんの8名で、少々アルコールも交え、適当におつまみをつまみながら、感想やお互いの労をねぎらうひとときをもちました。

そして、次回の支援活動はこの「桑折地区」と以前2度訪れた「南相馬市」で、9月15～16日の両日に「自転車整備・eコア活動」と共に、山形県をはじめ東北の名物料理として有名な「芋煮」と田川さんが得意とする「ハラコ飯」（シャケといくらを混ぜ込んだご飯）をしようという話し合いもなされました。

食後、関東グループの4人は往路同様2台の車に分乗し帰路につき、田川さんは酔い覚ましのため車中で仮眠、関西グループの3人はJR東北本線桑折駅まで歩き、そこから電車で福島駅に出ました。

福島駅からの夜行バスは、21時出発ということで、まず福島駅構内にある「銭湯」で疲れをとり、その後、徒歩で8月にも訪れた福島屋台村「こらんしょ横丁」に移動し、福島の地酒と福島の夜を3人で楽しみました。

「屋台村」でラッキーだったのは、地元枚方市のお店でも愛飲している6種類の「奥の松」（福島県二本松市に蔵元）の「利き酒大会」（参加費無料）があり、上位7人に入り、ボトル入りのお酒をゲットすることができました。

こうして義父の逝去、2日連続京都⇄福島夜行バス乗車という強行スケジュールの東北支援活動を終わりました。さらに言うと早朝帰宅後、午後からは通常の「療育教室」の仕事をこなすというハードな日程の今回の被災地支援活動でした。

（おおしま まさひろ）



＜CVJメンバー7名と田川さん、小澤仮設

住宅自治会長さんと共に＞